

権座の取り組みについて：宝物と宝探し
～素晴らしい風景が農業を守る「水郷を活かした農の里づくり」
Treasure-hunting in Gonza, Conservation of Farming Area Utilizing Outstanding
Lakeside Landscape

○大西 實
Minoru Ohnishi

1. 日本の原風景として：「権座」とは、琵琶湖の内湖である西の湖の北西部（琵琶湖への出口である長命寺川の始まり付近）にある湖中の島のことで、地名が「権座」といいます。この中に水田があり、現在も連綿と耕作を続けています。トラクターやコンバインといった農機具は船で運ばなければならず、通常の3倍の手間が掛かります。その分、収穫の喜びは一塩で、収穫した米が船に乗って運ばれてくる様子は、毎年注目の的となっていました。

2. 名勝と重要文化的景観：「更級も芳野もよしや月花に これもはなれぬ 雪の夕はへ」。この歌は、天和二年（1682）、今から350年以上も前に、俳人松尾芭蕉の師でもある野洲出身の北村季吟が八幡山に登り眼下に広がる夕映えの西の湖の美しさに感動して詠んだ歌で、更級の月、芳野（吉野）の桜が古来、天下一の名所といわれているが、この八幡山から眺める西の湖の水郷の夕映えはそれに少しも劣らない、両者と並び称すべき天下の絶景だという意味です。この水郷景観の美しさを詠んだ歌の発見が「近江八幡の水郷」として、市民を挙げて「重要文化的景観」の選定に向かうきっかけとなりました。そして、近江八幡市が世界に誇る重要文化的景観「近江八幡の水郷」は、平成18年1月に全国第1号として選定されました。

3. 重要文化的景観選定を契機として：風景としても珍しい権座ですが、そもそも、重要文化的景観とは、人々が連綿と続けてきた生業によって形成された景観を文化財として選定するものであり、美しい景観を守るためには、その地を守る「人」の存在が不可欠です。権座が属する白王町では、重要文化的景観の話が出た際、普段は見慣れた風景が文化財になるということに懐疑的な意見も多くありました。しかしながら、ふるさとの風景を守り、地域を盛り上げたいという人達の熱意が次第に高まり、重要文化的景観選定を契機として、権座・水郷を守り育てる活動は大きな進展を見せることになりました。

4. 権座プロジェクトのスタート：1枚の写真がきっかけで始まった権座を守る取り組みを紹介します。今から15年前に私が権座で農作業をして、田舟に収穫したモミを運んでいる写真が、大変興味深く貴重な写真として取扱いされて、権座を多くの人に知ってもらおうイベント開催へと進展しました。2006年11月に「権座・水郷コンサート」を開催し、900名近い参加者で賑わいました。そして、次の年に、多くの方から問い合わせを戴き、権座でなにかやろう、継続的にできるものは何か思案しました。結果、権座で酒米を植えて地酒を創ろう、そして多くの方に吞んで頂いて、権座を知ってもらおう、権座を守って行こう・・・こんな社会運動に展開しました。

権座・水郷を守り育てる会, Gonza, Suigo wo Mamori Sodateru Kai

キーワード：水郷、重要文化的景観、営農活動、協働、まちづくりむらづくり

5. **ロマンとソロバン**：権座の活動は、日本ユネスコ協会連盟の第5回日本未来遺産にも登録されました。未来遺産運動とは、100年後の子どもたちに長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝える運動であり、まさに、権座の活動は地元の誇りでもあり、まちづくりの大きな旗印と言えます。その審査員である朴三重大学副学長（当時）が、権座に上陸して発せられたことばが、ロマンとソロバンです。ロマンは夢・理想・希望であり権座そのものです、権座はわれわれのエネルギーを熟成してくれる聖地であります。ソロバンは営農活動であり、楽しい農業を続けることです。

6. **権座の危機 湖中堤防計画**：じつは、この素晴らしい日本の原風景ともいわれる西の湖水郷が、蛇砂川（長命寺川）新設河川建設のため壊される危機がありました。計画は20年前に策定されましたが、日本一の水郷地帯を名勝指定にしようとして動き始めていた市行政は、今から10年前に既に計画されていた「湖中堤防」を見直してもらうため、当時の近江八幡市長が国土交通省河川局長に直談判されたエピソードがあります。それは、工事を中止してくれではなく、なんと「わたしの生きている間に早く工事を着手してください、素晴らしい水郷の景観が見事に壊されたことを確認してから死んでいきます」と陳情？されたそうです。河川局長曰く「それは、なんと悲しいことでしょうね」・・・2週間後国から滋賀県に連絡が入り「西の湖の湖中堤防計画中止」すなわち計画は白紙撤回になったわけです。つまり、権座に橋は掛からなくなりました。そのことは、「権座」が真の宝物になった瞬間でもあります。

7. **多様なイベントの展開**：平成18年には、権座で開催された水郷コンサート（出演者はプロの音楽家）が行われ、800人以上の観客が上陸されました。この、イベントをきっかけに、地元の集落営農組合では、幻の酒米「滋賀渡船六号」を復活させて権座で栽培し、地元酒造会社で純米吟醸酒を製造・販売するなど多様な活動を展開しています。その後も、毎年収穫感謝祭や新酒のつどいなどを開催しており、農業関係者以外にも広く一般の人々が集い、楽しむ場所へと変貌を遂げています。そして、後継者の問題、若者の参加ですが、白王町ではそれが自然に広がっています。なんと、10組の若者がUターンしてくれました。一見、単純ではありますが、地元の者がまず自分たちが「楽しむ」「協働」という原則を貫いてきたからこそ、その楽しそうな雰囲気に惹かれた多くの人々が集い、自然発生的に活動が多様化し好循環を生んでいったのではないかと思います。

8. **宝物はどこにでもある・・・あなたの住んでいる所にも**：まちづくりのシンボルとして、我々は「権座」を探し出しました。そのような宝物は日本全国どこにもあるのです。それを探し当て、磨きをかけるのはそこに住んでいる人々しかできません。まちづくりは人づくり、とも言います。自分の住んでいる故郷に愛着を持って、住み続ける、そのことが郷土愛を熟成することになり、むらづくりの基盤作りになります。

9. **我々が出来ることを一歩ずつ着実にマイペースで**：まちづくりの活動は、やっている者が一番に楽しまなくては成功しないと思います。活動に誇りを持つ事、先人が築いてくれたこれまでの苦勞からみると、我々の活動はほんの一握りしかないのです。だから、まだまだ、頑張らなくてはならないのです。